

Triennale School



いよいよ今年8月10日に開幕するあいちトリエンナーレ2013。出品作家の作品の内容も、少しずつですが決まりつつあります。トリエンナーレスクールでは、アーティストたちが今回のトリエンナーレにかける想いを、みなさんにいち早くお届けします。

5月

5月11日(土)
14:00~15:30
愛知芸術文化
センター 12階/
アールスペースA
定員200名

ゲスト:ヤノベケンジ(アーティスト)
進行役:五十嵐太郎(あいちトリエンナーレ2013 芸術監督)
「サン・チャイルドの誕生、そして結婚式」
2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、制作された《サン・チャイルド》。これは太陽のシンボルを手にヘルメットを外して、前を見据えながら立ち向かう、子供像のモニュメントです。この像には再生と復興へのメッセージが込められています。あいちトリエンナーレ2013では、会場内にこの《サン・チャイルド》が設置されるほか、サン・チャイルドの胸像の新作《ウルトラ・サン・チャイルド》を前に、実際の結婚式が行われます。《サン・チャイルド》誕生の秘密と、それが結婚式へと結びつく理由を、アーティスト自身が語ります。



《ジャイアント・トラヤン》2005年 豊田市美術館でのファイアーパフォーマンス 撮影:豊永政史

ヤノベケンジ YANOBE Kenji

1965年大阪生まれ。幼少時に見た万博の跡地を未来の廃墟とみなし、自らの創作活動の原点と位置づけ、サブカルチャーによる造形美と物語性を織り交ぜながら、ロボットなどの大型機械彫刻を制作。テーマは世紀末的なサイババルから、新世紀を迎えて、リバイバルに移行した。東日本大震災後、希望のモニュメントとして、防護服のヘルメットを脱いだ6mの子ども立像《サン・チャイルド》を発表し、世界各地で巡回を続けている。



愛知芸術文化センター 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2

- ◎地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車、東へ徒歩3分
- ◎名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、東へ徒歩2分

6月

6月29日(土)
14:00~15:30
名古屋市美術館
2階/講堂
定員180名

ゲスト:藤村龍至(建築家)
進行役:五十嵐太郎(あいちトリエンナーレ2013 芸術監督)
「列島改造論2.0とナゴヤ・ソーシャルプローブ・プロジェクト構想」
1970年代、農業国から加工貿易の国に転換した日本は、現在、経済のグローバル化に伴って再び構造転換を迫られています。製造業に支えられてきた愛知県も同様の問題が起きることが予想されます。インフラストラクチャーに注目して国内再編と海外展開を図る「列島改造論2.0」をベースに、名古屋都市圏の将来像を探求する「ナゴヤ・ソーシャルプローブ・プロジェクト」を藤村はあいちトリエンナーレ2013で展開します。今回は、同じく1970年代に開発され、インフラストラクチャーの老朽化と人口の高齢化により問題の先行する埼玉県鶴ヶ島市で行ったプロジェクトと、「ナゴヤ・ソーシャルプローブ・プロジェクト」の背景について語ります。



《鶴ヶ島プロジェクト》2012年 提供:東洋大学建築学科

藤村龍至 FUJIMURA Ryuji

1976年東京都生まれ。藤村龍至建築設計事務所主宰。独自のデザイン手法である超線形設計プロセス論を用いた作品、「BUILDING K」(2008)で注目を集める。フリーペーパーやウェブマガジンの企画制作、twitterなどのメディアを通じた情報発信、展示会のキュレーション等も精力的に行う。最近では思想家の東浩紀が提唱する「福島第一原発光地化計画」にも関わり、国土スケールから新しい日本の姿をデザインしようとする野心的な若手建築家である。



名古屋市美術館

愛知県名古屋市中区栄2-17-25(芸術と科学の杜・白川公園内)

- ◎地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」駅下車、5番出口から南へ徒歩8分
- ◎地下鉄鶴舞線「大須観音」駅下車、2番出口から北へ徒歩7分
- ◎地下鉄名城線「矢場町」駅下車、4番出口から西へ徒歩10分

7月

7月13日(土)
15:00~16:30
名古屋市美術館
2階/講堂
定員180名

ゲスト:細江英公(写真家) 進行役:越後谷卓司(あいちトリエンナーレ2013 キュレーター)



《へそと原爆》1960年より

『《へそと原爆》に見る、太陽のこどもたち』

若くして写真の才能を見出された細江英公は、他ジャンルの芸術家と積極的に交流していました。1959年、写真家自身によるエージェント集団VIVOを結成した頃、細江は日本が生んだ身体表現「舞踏」に出会い、衝撃を受けます。土方巽や大野一雄と親交を深める中で、1960年に細江は「おとこ女」という写真集でその衝撃を表現しました。同じ衝撃が細江の唯一の映像作品《へそと原爆》にも現れています。細江が見た日本の戦後復興と、戦後期の新しい芸術の胎動について語ります。

細江英公 HOSOE Eikoh

1933年山形県米沢市生まれ。写真家、清里フォトアートミュージアム館長、東京工芸大学名誉教授。1969年「鎌鼬」で芸術選奨文部大臣賞を受賞。1998年紫綬褒章受賞。2010年ニューヨークにてナショナル・アーツクラブ(米)より日本人として初めて第18回写真部門生涯業績賞を受賞。同年秋、文化功労者に選出される。主な代表作に「おとこ女」「薔薇刑」「抱擁」「ガウディの宇宙」「ルナ・ロッサ」「浮世絵うつし」「死の灰」等がある。

8月→10月

『パブリック・プログラム』

トリエンナーレ会期中(2013年8月10日から10月27日まで)には、トリエンナーレをより身近に感じていただくために、出品作家によるアーティストトークや、この地域の文化の魅力に迫るレクチャーシリーズ、県内外の各種団体との連携によるプログラムなどを実施していきます。お楽しみに!!

あいちトリエンナーレ2013

会期:2013年8月10日(土)~10月27日(日)

会場:愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、岡崎市内など
問い合わせ:あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 Tel:052-971-6127 <http://aichitriennale.jp/>